

合同

No. 468

「見ないで信じられますか」

日本キリスト合同教会教師

岸本茂雄



「イエスはトマスに言われた。『わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである』
(ヨハネによる福音書20章29節)。

わたしたちは受難節から十字架、復活へと続く時期を過ごしています。イエス・キリストが十字架のご受難によってわたしたちの罪を贖ってくださり、復活されたことを喜び、神の無限の愛に感謝しています。

わたしはインターナショナルVIPクラブの働きに参加しています。ビジネスマンに福音を伝えることを使命とし、クリスチャンビジネスマンが様々な集会を催しています。受洗に導かれた方は多いのですが、それ以上に集会を拒否したり、参加しても福音を受け容れない方が大勢おられます。

ビジネスマンに特徴的な傾向として、非科学的と思われる事柄を受け容れません。聖書に記された超自然的な奇跡、処女降誕や復活、イエス・キリストの癒しのみ業などに拒否反応を示しますし、進化論的思考の方は神の天地創造を単なる神話と考え、性善説の方には自分が罪人だと認識してもらえません。この競争社会で頑張っている方は、神にすぎるほど弱い人間ではないと言うのです。

しかし、ビジネスマンは科学者や大学教授や研究者ではないので、彼らの科学的知識は自ら研究したものではなく、学校の教科書やビジネス書に掲載される科学知識、TV放送やSNSで流れる情報であり、間接的に聴いたり見たりした情報です。それを信じていると言うのです。

万有引力の法則を発見したニュートンはクリスチャンでした。あるとき、太陽系の精密な模型を造りました。地球や惑星は自転しながら太陽の周りを

公転するのです。彼の友人で無神論者の科学者は、「これは誰が造ったのか」と聞きました。ニュートンは、「長い間待っていたら、自然にできたんだよ」と答えるだけでした。その友人は怒り出して、「こんな精密なものは偶然にできるはずがないじゃないか。君が造ったのか」と。そこでニュートンは言いました。「こんな模型でも誰かが造ったと言うのなら、このすばらしい宇宙全体が自然にできるはずがないじゃないか。神が創造されたんだよ」と神のみ業を語ったのです。

それでは、聖書ではどうでしょうか。冒頭のみことばの通り、トマスはイエス・キリストの傷跡を見て、復活されたことを信じました。死人が復活するのはあり得ないことではなく、少なくともイエス・キリストは復活されたのです。それは、創造主なる神のなせるみ業であり、贖い主なる神の人間に対する深い愛と憐みの心でした。神は全知全能ですから、自ら創造した天地万物に定めた自然界の秩序を、その無限の愛のゆえにあえて超越し、人間には考えられない超自然的な奇跡を行ったのです。イエス・キリストの死によって人間の罪を贖い、また、復活によって永遠のいのちを与えてくださったのです。

疑い深いトマスの信仰を福音書に記したヨハネは第一の手紙で、「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について・・・」(ヨハネの手紙一1章1節)と語り、イエス・キリストのみ業を伝えています。誰かから聞いた話を鵜呑みにするのではなく、科学者のように実際にその目でよく見て、手で触れて確かめた確実な情報として、わたしたちにイエス・キリストの十字架と復活を宣べ伝えているのです。

わたしたちはイエス・キリストの十字架と復活の現場に立ち合っていないませんが、その場に立ち合った弟子たちは、後世のわたしたちが間接的ながらも、見て、感じて、信じるようにと、聖書にその真実を書き残してくれたのです。わたしたちの周囲にいる、まだイエス・キリストを主と信じていない方々に、このみことばの真実を伝え、主の十字架と復活を証しましょう。

